

通し番号	4909
------	------

分類番号	29-91-34-01
------	-------------

(成果情報名) 定置網で漁獲されたイシダイの短期蓄養による価格の向上
[要約] 小田原市漁協の定置網で短期蓄養が行われているイシダイについて、通常の出荷と短期蓄養して出荷(出荷調整)のそれぞれの量と単価を調べ、短期蓄養による効果について検証した。その結果、短期蓄養を行うことでイシダイの単価が上がり、増収が見込まれることがわかった。さらに通常出荷では値の安い小型サイズでも、短期蓄養による出荷調整後は、小型のものもまとめて出荷することでき、イシダイの単価が上がるということがわかった。
(実施機関・部名) 神奈川県水産技術センター・相模湾試験場 連絡先0465-23-8531

#### [背景・ねらい]

小田原漁港では、定置網で漁獲された一部の魚種を一時的にストックする短期蓄養を行っていることから、短期蓄養による出荷の効果を検証し、流通市場への安定的な供給や定置網漁業の経営の安定に資する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 小田原市漁協の米神・石橋定置網漁場のイシダイ漁獲量に占める短期蓄養出荷の量は3割以上であり、最近では6割を超えている(図1)。
- 2 短期蓄養後の平均単価は、当初の頃の2,500円/kg程度からは下がったものの、通常出荷の単価より高めで推移している(図2)。
- 3 年によって通常と短期蓄養の単価に上下はあるものの、概して蓄養の方が高めで推移しており、その時の市場の状況に応じた出荷方法を選択すれば通常出荷だけより増収が見込める(図1)。ちなみに、直近の28年度では、通常出荷の平均単価は1,667円/kgに対し短期蓄養の平均単価は1,980円/kgで、短期蓄養後の出荷の方が313円高くなった。
- 4 平成28年度の短期蓄養後の取扱量を通常出荷の単価と短期蓄養後の出荷の単価で比較すると短期蓄養して出荷した方が5,041,491円増加し、経営の安定化を図れる可能性があることがわかった。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 現在、イシダイ以外にマダイやカワハギなどの短期蓄養を行っているが、さらなる魚種拡大の検討。天然魚は、活動が盛んで蓄養に向かない魚種も多く傷つきやすいため、病気になりやすいなどの課題がある。
- 2 蓄養期間が長くなると魚体が痩せて商品価値が下がるので注意が必要で、特に水温が高くなる時期は注意が必要になる。
- 3 出荷量の安定的な確保の点で単独の漁協での実施には限度があり、市場に水揚げする漁業経営体全体での連携が必要。

[具体的データ]

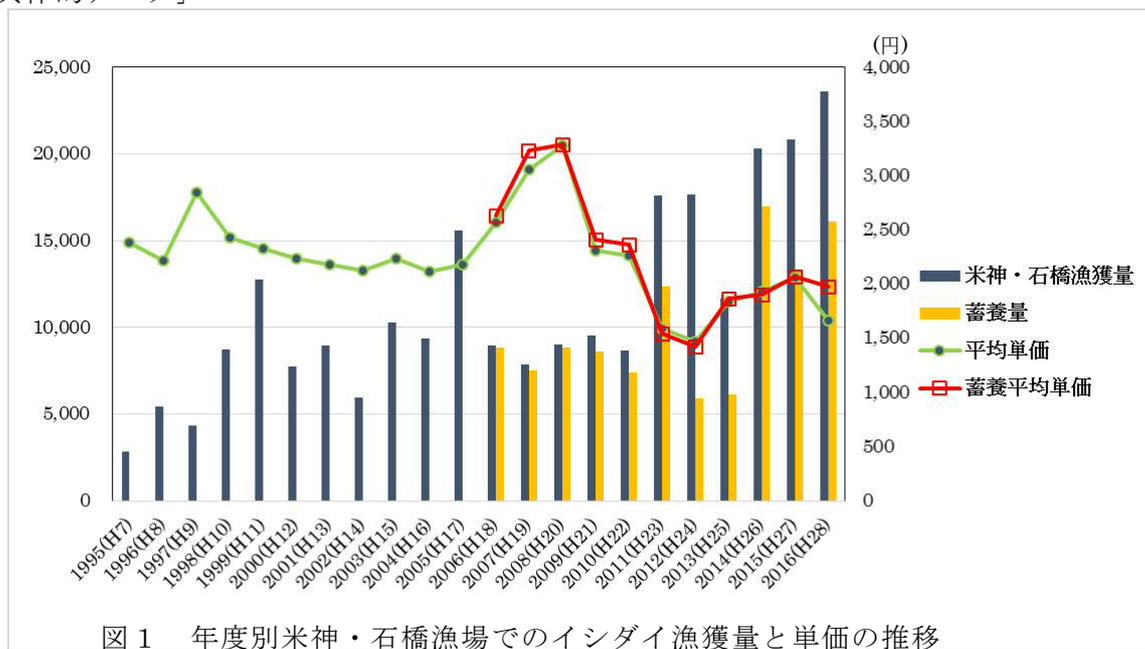


図1 年度別米神・石橋漁場でのインダイ漁獲量と単価の推移

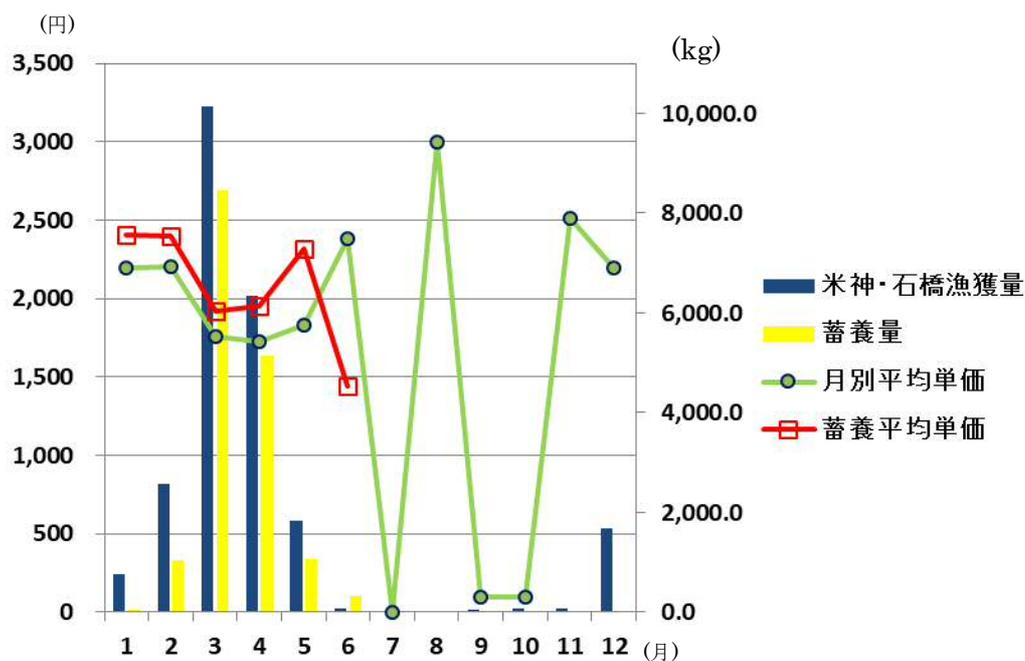


図2 平成28年度の米神・石橋漁場でのインダイ漁獲量と単価の推移

[資料名] 平成29年度水産技術センター業務報告

[研究課題名] 定置網漁業安定出荷支援研究

[研究期間] 平成27～32年度

[研究者担当名] 村上哲士 鎌滝裕文